2023‐11‐12　説教準備

ヨハネによる福音書　３：１３～１７

「永遠の命」

今日の礼拝は、永眠者を記念する礼拝です。この上山教会を建立され、伝道され、福音の光を灯し続けてきた方々を、偲ぶと共に、私たちも先達の方々に倣っていくための礼拝だと思います。そして、その先達たちを遣わされた、イエス様、また私たちもイエス様によって遣わされていることを今日与えられた聖書個所を一緒に、噛み締めることが出来たらと思います。

★ヨハ3:13 天から降って来た者、すなわち人の子のほかには、天に上った者はだれもいない。

と記され、１４節のモーセのお話から15節の永遠の命のお話に、進んでいきます。ヨハネによる福音書にしては、話の流れが速すぎると思い、ギリシャ語の原点に当たってみるも、新共同訳の訳は適切で、口語訳も新改訳もほとんど同じ訳になっています。

しかし、私の腑に落ちないので、少し深堀してみました。

ネストレ・アランド２８という、ギリシャ語の原点とされる物があります。世界中の聖書学者の人たちが、失われてしまった、3世紀から4世紀にかけて編纂されたギリシャ語の原点に近いものとされる、ギリシャ語聖書をﾈｽﾄﾚ・ｱﾗﾝﾄﾞ２８として、表したものです。一番古いとされる聖書が二冊あって、その二冊も写本の為、全く同じではなく、違うテキストが何箇所かあり、どちらが違うのか、ほかのギリシャ語聖書が正しいかを検証して、現在、原点とされているギリシャ語がネストレ・アランド２８として、出版されています。

その書物に当たって、3：13節で、何冊かの聖書で、書き替えられた、聖句がありました。書き替えられているので、写本の映し間違えではなく、ネストレ・アランド２８の原点が、逆に、書き替えたか？となります。

書き加えられたとする、聖句として

その　から　その　天

**ὁ　ἐκ　τοὒ　οὐρανοὒ**

**その　ところの　天の中の誰か**

**が、　ὁ　ων　εν　τω　οὐρανοὒ**

**ων：**関係代名詞属格複数　、　**τω　τις ：誰か**

書き換えられた聖句を直訳すると：『そして、天の**中にいた人が**下ってきた、人の子でないと、その天に上がったものは誰もいない。』

**そして　何もない　上っていた　　　まで　　　その天　　もし　ない　その　～　その天から　　降った**

**Και οὐδεὶς ἀναβέβηκεν εἰς τὸν οὐρανὀν εἰ μὴ ὁ ἐκ τοὒ οὐρανοὒ καταβάς,**

**動）直完了能3単　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　分）アオ能主男単**

**ὁ　υἱὸς　τοὒ　ἀνθρώπου.**

その　子　その　人　　・・・＞人の子

違訳の直訳のほうが、少し天に居たという意味が分かりやすくなります。ただ天から下ってきたより、天の中にいた人が下ってきた方が、**人の子の意味がより神に近いものになる**のではないでしょうか。

また、ﾈｽﾄﾚの「降って来た者」の引照聖句は、新共同訳にもない、新改訳聖書にもないヨハネ6：62を引照聖句にしています

**6:62 それでは、****人の子がもといた所に上るのを見るならば……。**

 6:63 命を与えるのは“霊”である。肉は何の役にも立たない。わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、命である。

ネストレアランド２８の引照箇所で、６章６２節の「**人の子がもといた所に上る」**とあるように、3章16節の聖句は書き換えられたギリシャ語の方が、本来的な意味なのではないかと思と思います。

今回は、永眠者記念礼拝でもあるので、天に単に上がっただけでなく。「イエス様が居たところに上がった」天のほうが、イエス様のぬくもりを感じ取ることが出来、ほっとするものがあると思います。